

道標ない旅

自分も人も大切に
～思いやり
・チャレンジ
・しなやかな心～



令和2年度 第24号
2020.11.13発行
葉山町立長柄小学校
校長 益田孝彦
Tel. 046-875-6860
Fax. 046-876-0682

<http://www.town.hayama.lg.jp/nagae>

◆◆ 11/11 に第2回学校評議員会兼学校関係者評価委員会が開かれました。 パート1 ◆◆

今回は、皆様からのアンケート結果等をもとにして、学校運営方針である

- (1) 新しい時代に必要な資質・能力を育む学校
- (2) 豊かな心を育み、信頼で繋がった学校
- (3) 地域を愛し、地域から愛される学校

と、(4) いじめ防止に向けた対策について、その成果についての検証を行っていただきました。その結果を紹介したいと思います

(1) については、「小中連携の9年間の実現は大賛成、長柄・南郷ならできると思う。実際にやっていく必要があると考える。」「よくTVで『考える授業』とか聞くようになった。まだ身についた大学生等が育っているとは思えない。小学校から培っていく必要がある。」「今の20代から30代前半の人には身につけ始めている世代に感じることもある。考えて、利用して、取り入れて、発信することができている事例をよく見かける。」といった、委員からのご意見・感想をいただきましたが、以下のようにまとめることで承認をいただきました。



<見解と改善方策>

職員アンケートでは、「小中連携を意識した教育課程の編成が出来たかどうか」を問うている。本校では、職員会議において、町として小中一貫教育の構想を現実的に捉えていることを発表している。それ故、本当に教育課程の編成に取り組んでいるかの観点で評価した結果、数値が大幅に落ち込んだと考える。一方、コロナ禍においても、他の項目は向上傾向にある。特に著しいのが「校内研究の充実」である。多くの教員の意識がはっきり変わったことが見て取れる。その自信や、総合・生活への授業実践を通し、「主体的・対話的で深い学び」「育む授業への授業改善」の項目も向上したと考えられる。

児童アンケートを通して、話し合い活動に活発に取り組んでいるという実感があるように感じられる。それは保護者においても、児童の話や、学級だより等を通して、同様の実感を得ているように感じられる。「主体的対話的で深い学び」を実現するには、今年のコロナウイルスは大きな影を落とし、障害となっていることは間違えない。とはいえ、その実現については校内研究の研究対象の「総合的な学習の時間」は、最も適した教科である。今後もしっかり研究を続け、楽しく学び甲斐のある授業実践を通し、成果を上げていくことが重要である。

(2) については、「教職員の捉えと、児童の捉えに多少の落差があるのは仕方ないかと思うが、独りよがりになってはいけない。指導の方法についても、小中一緒になって講習を受ける機会を持ちたい。」といったご意見をいただきましたが、伝え続けてほしいという要望のもと、以下のようなまとめを承認いただきました。



<見解と改善方策>

まず校長として、学校教育目標の「自分も人も大切に」をことあるごとに引用して、教職員・児童・保護者・地域の意識改革が進むように、意識しているがその意識は継続していきたい。

さて、職員アンケートでは、基本的にどの項目も6月時点の評価を上回り、高い評価が多かった。特に、「ちがいを大切にしている」3.77、「相談しやすい」3.63、「熱意を持った指導・支援」3.75が、高い評価になった。注目すべきは、児童アンケートにおいて、「ちがいを大切にしている」の項目は、3.12という低い評価になった。この認識の差は課題と捉えるべきである。

授業参観等がなく、状況を把握しにくかった保護者の評価は、どの項目も同じような数値で、大きな差が特徴として表れては来ていない。しかし、差が出た児童と教職員の意識の差は、実感を伴っているだけに重要と考える。児童への質問事項はないものの、「一人ひとりのちがいを大切にしている」と似た傾向にある「相談しやすい」「熱意を持った指導・支援」についても同じことが起こっていたかも知れないという認識を持って、今後に臨む姿勢が大事であると考えます。

なお、アンケート項目にないため見えづらいが、教育相談コーディネーターが役割をよくこなし、教頭と協働して、他機関と連携したケース会議を次々と実施し、成果を上げていることも見逃せない。引き続きこの体制・成果を維持していきたい。(次号パート2にて、続きを紹介します。)

◆◆ 学校関係者評価委員会で、議論された「アンケートについての質疑」について紹介します。 ◆◆

前段、評価委員として参加されているPTAの役員さんから、アンケート自体についての活発なご発言があり

ました。保護者の方々も総じて同様のご質問があったであろうと推察されますので、ここで紹介し、校長としてどんな思いがあったかをお伝えします。

まず、「校内研究って何？」という質問でした。同じ疑問をお持ちの方が多と思うので、説明します。校内研究とは、どの学校も学校として研究のテーマを設け、1年間、あるいは数年間同じテーマで、先生方同士で取り組むものです。長柄小学校は今年度～対話と探究を通した学びを深める総合的な学習～を切り口に「お互いを認め合う児童の育成」について講師の方を招聘しながら研究に取り組んでいます。

次に、「例年以上に答えることができない設問が増えたこと」への疑問です。答えられない質問について、意味があるのだろうかという率直なご意見でした。自由記述においても同様のご意見に触れたり、実際「分からない F」を選んだ方が、多かった事実からも、説明責任があると考えております。

まず第1に、ご家庭の視野から見える範囲の基本は、お子様自身のこと、担任教師のことであるのは間違いありません。だからこそ、アンケートを採るたびに「長柄小児童はとか、教職員は？」と聞かれると、そこまでは把握できていないと、広い表現の設問には一定数の疑問が毎年寄せられます。そのことは仕方ないのです。しかし、今回は2つの要素が加わっています。一つは、「学校に来る機会が激減し、様子が例年以上に把握しにくいこと」です。答えたくても、答えられない環境であったことは見逃せません。そしてもう一つが、「従来の設問に加えて、『そこまで分かりかねる質問』が増えたこと」です。例えば、「長柄小学校では、学力を育む、『主体的・対話的で深い学び』が実現するような授業の工夫が行われている」といった設問がその代表格でしょう。ただでさえ、授業の様子が分かりにくくなったのに、「こんな質問答えるのは無理です」と言われるのはその通りです。ではなぜ質問に加えたのか、やはりしっかりと説明する責任があります。

今までなら、そこまでは分からないって言われても仕方ないことは、項目に載せないのが主流でした。しかし、学校としては、「見えにくい内容」と言われてしまう項目の内容を、達成できるように目標にしているのです。私が掲げている「学校の方向性」、「努力の目当て」、「実現したいこと」を保護者の皆様に伝えて、せめて知っていただきたいのです。学校が何を目標しているかを知っていただくことは、地域の方々に支えていただきながら学校を運営していく「コミュニティ・スクール」の基本と考えているのです。皆様に学校の方向性を知っていただきたい、やがてはその到達度を判定していただきたい、そんな思いでアンケートに踏み切りました。ご理解頂ければ幸いです。

その他に、「兄弟が居るのに同じ質問に答える必要があった。手間が2倍かかる。家庭実数配付ではいけないのか？」という質問もありました。私が答えた内容は、「一色小校長時代、保護者アンケートにおいて、兄弟でも状況が異なるので、児童数でアンケートを採ってほしい。」との要望に応えた経験から、児童数でのアンケートとしました。次年度は、兄弟により答えが異なりそうな項目は、前段にまとめ、後段はダブるであろう内容項目をまとめ、一人答えたら後は省略可という方式が分かるように作り替えて実施したいと思えます。

なお、評価委員会の席上で校長として以下の内容も伝えました。回答して頂いたすべての保護者様に伝えたい内容です。「今回、無記名という手法をとりました。無記名にすると、言いすぎともとれるような批判や要望が増える可能性がある中、今回の自由記述に修正は一切ありません。すべて原文で載せることができました。他校での経験ですが、例年なら配慮による加工・修正を行ってきたことを考えると、すごいことだと思っております。アンケートはやる気・元気を削ぐので、できればとりたくないという思いの教職員が多かったのですが、感謝や励みに繋がるご意見要望が多く、大変ありがたかったです。」と申し添えました。改めて感謝申し上げます。

◆◆ ひまわり空撮さんが、卒業アルバム等で活用くださいと写真を提供してくださいました。 ◆◆

ご購入頂いたご家庭も多くあるようで、嬉しく思います。思い出の1ページとして頂ければ幸いです。ウーパールーパーのできばえはいかがでしょうか。この写真の頃とは、空気の温度がすごく変わりました。コロナウイルスの第3波が心配になってきましたね。みんなで負けないで乗り越えていきたいなと願います。手洗い・うがいを励行し、ウイルスを持ち込まないよう頑張りましょう。

